

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

藤浦雅彦議員

6 本市の教育改革10年の歩み、及び今後の方向性について

【質問1回目】

○藤浦雅彦議員 本市の教育改革、10年の歩み及び今後の方向性についてでございます。

平成15年から始まった本市の教育改革を振り返って、行きたくてたまらない学校学びのある教室は、10年間たってどうなったのか、また、学力は、不登校は、いじめは、そして小中連携はどのように推移をしてきたのか、1回目、統括をお願いしたいと思います。

【質問1回目への答弁】

○登阪次世代育成部長 本市の教育改革についてのご質問にお答えいたします。

教育委員会では、平成15年4月より小中学校の目指すべき方向を行きたくてたまらない学校、学びのある教室の実現とし、児童生徒の学力向上といじめ、不登校を初めとする生徒指導上の諸課題克服のための取り組みを開始いたしました。

個に応じたきめ細やかな授業づくりの研究を進めるため、この間、毎年、小中学校のうちの2校程度を摂津市教育課程研究開発校として委嘱し、研究の成果を市内外に発信し共有することにより、教員の指導力向上を図ってまいりました。

また、研究開発学校の取り組みに倣い、他の学校も積極的に授業公開を行うようになり、授業力の向上のみならず、開かれた学校づくりにも大きく貢献することとなりました。

さらに平成15年度から教育改革フォーラムを開催して教職員や保護者を中心に本市の教育課題について共通認識を図り、児童生徒にかかわる全ての大人が力を合わせて取り組めるよう、情報発信を行ってまいったところでございます。

こうした取り組みにより、知識、技能の習得を中心とした基礎的・基本的な学力の向上に少しずつ成果があらわれてきております。

次に、生徒指導でございますが、家庭教育相談員やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等を小中学校に配置し、関係機関との連携を充実させるなど、学校、教育委員会事務局の組織的な体制づくりを行い、いじめや不登校といった課題の克服に努めてまいりました。

平成13年度にピークであった不登校数は減少し、小学校では半減することとなりました。

さらに、平成19年度に立ち上げた小中連携教育推進協議会を平成22年度には小中一貫教育推進協議会と改称するとともに、就学前教育推進検討委員会も立ち上げ、就学前教育と義務教育を円滑に接続することで校種間の段差を解消し、一貫性のもと、児童生徒の教育活動の推進に努めております。

【質問2回目】

○藤浦雅彦議員 教育改革についてですが、平成14年に和島前教育長の就任のときの教育委員会の大きな課題は、1つは学校の統廃合、そしてもう一つは教育改革であったと思います。

平成16年にみやけ幼稚園をせっつ幼稚園に統合したのを始め、平成20年に三宅小学校と柳田小学校を、味舌小学校と味舌東小学校を統合しました。一方で、教育改革、施設整備を実施し、統廃合で削減できた財源で教育改革を実施するとの説明でございましたけれども、このことについても、一度検証をすべき問題であると思いますが、いかがでしょうか、ご答弁をお願いしたいと思います。

また、学力問題、不登校問題、いじめ問題、小中連携と就学前教育など、さまざまな問題に取り組んでこられ、それなりの効果も得られたことを伺いましたが、新しい教育長を迎えて、摂津の改革も第2弾を、第2期を迎え

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

藤浦雅彦議員

6 本市の教育改革10年の歩み、及び今後の方向性について

ると言ってもいいのではないかと思います。本市の今後の教育改革の方向性をさらにどのようにされていくのか、あわせてご答弁をお願いいたします。

【質問2回目への答弁】

○登阪次世代育成部長 本市の教育改革についての2回目のご質問にお答えいたします。

平成20年4月、小学校統合による経常経費の削減分を活用し、学校教育の充実のための新しい事業をスタートいたしました。

小学校の新入生が学習や学校生活といった義務教育のスタートをとまどうことなくスムーズに始められるよう、小学校1年生の全てのクラスに学級補助員を配置いたしました。

また、小中学生の豊かで幅広い読書活動を支援し、本好きな摂津っ子を育むために小中学校に読書活動推進サポーターを配置いたしました。それ以外にも学習サポーターの派遣や家庭教育相談員の配置、小中連携教育推進のための事業を開始いたしております。

これらの事業は、現在も継続して展開しており、学力向上やいじめ、不登校といった教育課題の克服のため、効果を上げているところであります。

次に、教育改革の今後の取り組みでございますが、この10年間のさまざまな取り組みにより、本市の学校教育は着実に前進してきたものと考えておりますが、さまざまな教育課題が残されており、引き続き取り組みを強化し、家庭や地域とともに協働で進めていかなければならないと考えております。

学力向上につきましては、全国学力・学習状況調査、摂津市シュアスタート確認調査の結果からの課題分析を進め、子どもたちの思考力、判断力、表現力をさらに育むために各校教員の授業力向上の支援や、各校の学力向上プラン実現のため、指導、助言を行ってま

いります。

さらに、子どもたちの家庭学習の習慣を定着させ、自主学習の姿勢を促進するために学習サポーターを派遣した宿題広場の全小学校での開催、土曜しゅくだい広場の充実を図ってまいります。

いじめ、不登校、虐待等の未然防止、早期対応につきましては、全小中学校に配置しているスクールカウンセラーを中心に、児童生徒、保護者が安心して相談できる体制を充実させるほか、家庭教育相談員を中学校区に配置し、不登校児童生徒の家庭訪問や保護者の相談に対応する家庭支援を強めてまいります。

また、スクールソーシャルワーカーを全中学校区に配置し、学校教職員とともに生徒指導体制の充実を図ってまいります。

取り組みの成果が市内全域に十分には共有されていなかった課題もございましたので、今後も積極的な情報発信に努めてまいりたいと考えております。

【質問3回目】

○藤浦雅彦議員 教育改革の問題でございませぬが、今まで先ほどいろいろとご答弁いただきました。

私も15回行われました教育フォーラムは全て参画をさせていただきまして、陰ながらではありますが、その摂津市の教育改革については支持をし、支援をしてまいりましたのでございます。

そして、いよいよ和島前教育長の後を受けられまして箸尾谷教育長が登板をされましたけれども、きのうは教育委員会の改革について、また、義務教育のあり方についてご答弁をされましたけれども、私からは、ずばり、摂津の教育改革について、新たに教育長のバトンを受け継がれて、どのような方向を目指して行かれるのか、抱負と意気込みをお聞か

～会議録抜粋～ 会議録より抜粋し、「一問一答形式に編集」したもので正式な会議録ではありません。

===平成25年第2回定例会 一般質問===

藤浦雅彦議員

6 本市の教育改革10年の歩み、及び今後の方向性について

させていただきたいと思います。

最後に、今回が任期4年間の最後の議会となりましたけれども、できれば私自身も再び市民の信託を得て、再びこの場に戻り、市民の意見をこの場で伝えられるよう頑張ることを申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

【質問3回目への答弁】

○箸尾谷教育長 それでは、藤浦議員の3回目、摂津の教育を今後どのような方向に進めていこうとしているのかということについて、お答え申し上げます。

私は、本市の中学校教員を務めました後で、府の教育委員会に15年勤めてまいりましたけれども、当時から摂津市の教育は行きたくてたまらない学校、学びのある教室の実現を目指して、教職員の育成のための研究会であります摂津スクール広場でありますとか、あるいは児童虐待防止連絡会（通称キャピセ）などのような、府内でも先進的な取り組みをされているというふうに評価をさせていただいておりました。

また、多くの教職員が課題が山積する中で、教科教育に関しても、また部活動に関しても、本当に夜遅くまで真面目に取り組んでいただいているというふうに感じておりましたし、それは教育長として就任させていただいて、学校視察でありますとか、あるいは昨日も申しました校長に対するヒアリング等を通じて強く感じておるところでございます。

このような目標でありますとか、あるいは効果のある授業、それから一生懸命頑張らせていただいている先生方に対する支援は、今後も引き続き努めていきたいというふうに思っております。

しかし一方、このような取り組みにもかかわりませず、本市の小中学校におきましては

喫緊に解決すべきさまざまな課題が存在していることも事実であります。

その課題の1つが子どもたちの学力についてであります。

各学校ではこれまでからも子どもたちにわかる授業ということで授業研究等が熱心に行われておりますけれども、なかなかその成果があらわれてきておりません。

そこで、今年度からはこれまでの取り組みに加えまして、学校の教育活動について、より効果的な検証が行われますように、各学校におきまして年間の学校運営計画策定や、あるいは点検評価を実施する際に保護者代表やあるいは地域住民からなります学校評議員、この学校評議員という制度はもう従前からある制度でございまして、この方々の意見を参考とするとともに、取り組みの成果指標としてできるだけ数値目標を入れていただくように、学校現場に対して指示をいたしましたところでございます。

こうすることで、家庭や地域の実態に、より則した学校運営が行われますとともに、各学校において数値による効果検証が行われ、その検証結果が次年度の計画に適切に行かされていくようになるのではないかとというふうに期待しております。

現在、私ども教育委員会内部の事業点検評価の見直しも進めておりまして、こうした学校と教育委員会との双方でこれまでの取り組みを再点検することで、これまでの教育改革の流れを継承しながら、今後とも摂津の子どもたちのためになる施策の遂行に努めてまいります。